

2009年7月

<報道関係各位>

チャリティーイベント “アートは世界のこどもを救う”

日蘭通商 400 周年記念

『第 15 回 秘蔵の名品 アートコレクション展』

レンブラント、ゴッホ、そして現在。栄光のオランダ^{いま}絵画展

400 年にわたるオランダ芸術の継承から新たなヴィジョンへ

期間:2009年8月4日(火)~8月30日(日)

企業文化交流委員会
ホテルオークラ東京

ホテルオークラ東京は8月4日より「第15回 秘蔵の名品 アートコレクション展」
「レンブラント、ゴッホ、そして現在。 栄光のオランダ絵画展」を開催いたします。



レンブラント工房《聖家族》

レンブラント工房《聖家族》

1642-1648 年頃 油彩、板 66.5 × 78.0 cm

アムステルダム国立美術館（レンブラント協会、ベルンハルト王子財団の助成により購入）

©collection Rijksmuseum, Amsterdam, purchased with the aid of the Rembrandt Society and the Prince Bernhard Foundation

レンブラントは生涯に、数多くの宗教主題の絵画・版画を制作しているが、「聖家族」は特に好まれた主題であった。本図には、読書するマリアと、眠りかけているアンナ、そして揺りかごの中で眠る幼子キリストが、印象的な明暗描写によって浮かび上がるように表現されている。いかにも家庭的な雰囲気を漂わせるこの作品は、かつてレンブラント作品として人気が高かったが、近年はレンブラントの工房作とする見解が主流になっている。「慎ましやかな雰囲気を漂わせる室内の聖家族」という主題は、レンブラントおよびレンブラント派の得意とするものであったのだ。

開催に寄せて

17世紀以降、小さな国土ながらもヨーロッパ海洋貿易の中心となったオランダは、経済と文化がかつてないほど繁栄します。新しい社会の誕生とともに、伝統的な聖書や神話の物語だけではなく、人々の暮らし、美しい風景、華麗な花や楽しい食卓など、画家たちは新たな美を永遠のものにしたいと絵筆を執りました。17世紀のオランダ絵画は、風俗画、風景画、静物画を中心に、爆発的な勢いで絵画が制作され、市民は家の壁をたくさんの絵で飾り立てていたのです。絵画制作に対する強い意識は、時代が下っても続きました。海景画のメスダッハ、そしてなによりファン・ゴッホの情熱的な絵画制作は、19世紀末のオランダを彩るものでした。そして私たちは、21世紀を迎えた現在のオランダにも、素晴らしい絵画が生み出されることを知ることができるのです。

レンブラントからゴッホ、そして現代まで、400年にわたる栄光のオランダ絵画の数々が一堂に会する機会はまたとないでしょう。

(本展キュレーター 静岡文化芸術大学講師 立入 正之)

チャリティーイベント“アートは世界のこどもを救う” 『秘蔵の名品 アートコレクション展』について

ホテルオークラ東京の創業者大倉喜七郎は「ホテルは人々が集い、文化・芸術が交流する場である」という強い理念を抱いていました。喜七郎の父・喜八郎も文化を大切にし、文化財保護などの目的で蒐集した膨大な美術品を日本初の私設美術館として開設した大倉集古館で一般公開しました。

その思いを継承して1994年より始めた「アートコレクション展」は今回で15回目を迎えます。ホテルオークラ東京のメセナ活動の一環として、「ホテルの持つ社会性・公共性に着目し、社会に還元する文化活動」という発想のもと、企業・団体・個人が所有し日頃は目にすることの出来ない貴重な美術品を一堂に集めて公開する展覧会を考案しました。

この展覧会は、社会貢献活動に造詣が深い有志企業・団体による「企業文化交流委員会」が核となって開催しています。ホテルオークラ東京の単独企画ではなく様々な企業・団体・個人のご参加をいただくことで、より高いレベルの文化支援活動として具現化されました。また、第1回から「アートは世界のこどもを救う」と銘打ったチャリティーイベントとして企画され、過去14回の総寄付金額は約1億4千6百万円に達し、延べ約36万人のお客様にご来場いただいております。開催を通じて美術文化の振興に寄与するとともに、恵まれないこどもたちのための救済の一助となるべく、今年も純益の全てを、企業文化交流委員会を通じて日本赤十字社およびNHK 厚生文化事業団に寄付いたします。

本展覧会の見所

第 15 回目となる今回の展覧会は、日蘭通商 400 周年を記念して、「栄光のオランダ絵画展 レンブラント、ゴッホ、そして現在」と題し、17 世紀から今日までのオランダ美術の流れを 75 点の作品で展覧するものです。具象画を中心とした、質の高いオランダ絵画コレクションで知られている ING グループの貴重な作品を中心に、オランダ銀行、オランダ外務省所蔵の秀作も展示いたします。さらに、17 世紀オランダ絵画の殿堂であるアムステルダム国立美術館より、**レンブラント・ファン・レイン**の版画 7 点を中心とする傑作 9 点と、国内企業の御厚意により、**フィンセント・ファン・ゴッホ**のパリ時代初期の花の静物画を含む、ゴッホの初期油彩画 4 点が特別出品されます。

17 世紀の作品は 19 点で構成されます。そのうち 7 点は**レンブラント**の版画家としての才能がはっきりと刻印されている版画作品です。その芸術的円熟期に制作された 1648 年の**《窓辺で素描をする自画像》**をはじめ、夜景が印象的な聖書主題の作品では、レンブラントの卓越した光と影の表現を十分に味わうことができるでしょう。レンブラント工房作の情感豊かな**《聖家族》**も、その美しい明暗表現によって、忘れがたい印象を私たちに与えてくれることでしょう。その他、その工房で制作をしていた**フェルディナント・ボル**の宗教主題の版画や、17 世紀オランダにおいて、宗教的主题より分派し、発展を遂げた「**風景画**」、「**静物画**」、「**風俗画**」の各ジャンルの名品をお楽しみいただけます。

続く 18 世紀の作品は残念ながら本展覧会ではご覧いただけませんが、11 点の作品で構成される 19 世紀の作品群には、ゴッホにも影響を及ぼした、オランダ近代美術史上大変重要な「**ハーグ派**」の画家たちの作品が多数含まれています。フランスのバルビゾン派の影響を受け、ロマン主義的写実主義ともいえる作風を展開した「**ハーグ派**」の指導的画家たち、**ヤーコブ・H・マリス**、**ヘンドリック・ウィレム・メスダッハ**、そしてその先駆けとして知られる**ウィレム・ルーロフス**らの風景画が出品されます。さらに、オランダ印象派の巨匠**ヘオルフ・ヘンドリック・ブレイトネル**の作品も展示されます。

20 世紀の作品は、フォーヴィスムの影響を受けた強烈な色彩表現で知られる**ヤン・スライテルス**の作品や、同時代の様々なフランスの前衛的絵画運動に接近した**レオ・ヘステル**の作品など、22 点の作品で構成されます。17 世紀オランダの伝統を受け継ぎつつ、徹底的な写実主義を志向した「**魔術的写実主義**」の代表的画家の一人、**ディック・ケット**の作品も見逃すことはできないでしょう。

写真作品を含む、19 点の作品で構成される 21 世紀作品の多くは、若手作家の手によるものです。彼らは 17 世紀の偉大な文化的遺産を継承しながらも、新たなヴィジョンを模索しています。その作品主題に注目するならば、日本文化や日本的イメージが彼らに創作のインスピレーションを与えていることがはっきりとうかがえます。日本ではいまだ馴染みが薄い現代オランダ美術の今を直に目にすることが出来る、またとない機会となるでしょう。

開催概要

- 【名称】** チャリティーイベント “アートは世界のこどもを救う”
日蘭通商 400 周年記念 「第 15 回 秘蔵の名品 アートコレクション展」
レンブラント、ゴッホ、そして現在。栄光のオランダ絵画展
- 【開催期間】** 2009 年 8 月 4 日（火）～30 日（日） 27 日間 会期中無休
- 【開催時間】** 10:00～18:00（金曜日 10:00～20:00）最終入場 30 分前
ただし開催初日 8 月 4 日は 12:00～20:00、最終日 8 月 30 日は 17:00 まで
- 【会場】** ホテルオークラ東京「アスコットホール」(別館地下 2 階)
- 【主催】** 企業文化交流委員会
委員長 株式会社ホテルオークラ 代表取締役会長 松井 幹雄
委員 財団法人山種美術財団 名誉館長 山崎 富治
財団法人大倉文化財団 理事長 大崎 磐夫
財団法人大倉集古館 館長 大倉 喜彦
第一生命保険相互会社 代表取締役会長 森田 富治郎
みずほコーポレート銀行 取締役会長 齋藤 宏
(敬称略)
- 【協賛】** 株式会社ホテルオークラ東京 / ホテルオークラ共栄会
- 【後援】** 外務省 / オランダ王国大使館 / 港区教育委員会 / 読売新聞社東京本社 / NHK / 社団法人企業メセナ協議会 / 日蘭協会
- 【特別協力】** INGグループ、アムステルダム国立美術館、オランダ銀行、オランダ外務省
- 【協力】** 日本赤十字社 / NHK 厚生文化事業団 / 財団法人山種美術財団 / 財団法人大倉文化財団・大倉集古館 / 株式会社山元 / 日本通運株式会社 / 株式会社イーヴァ リンク / 株式会社アート・ベンチャー・オフィス ショウ
- 【事務局】** キュレーター 静岡文化芸術大学 講師 立入 正之
東京藝術大学大学美術館 助教 熊澤 弘
ING Art Management Annabelle Birnie
Sanne ten Brink
Caroline Vos
事務局学芸員 東京藝術大学 大学院美術研究科 大庭 朋子
顧問 府中市美術館 館長 井出 洋一郎
常葉美術館 館長 金原 宏行
平塚市美術館 館長 草薙 奈津子
(敬称略)
- 【入場料】** 当日)一般 1,200 円、大学・高校生 1,000 円、小・中学生 無料
前売)一般 1,000 円、大学・高校生 900 円、小・中学生 無料
- 【チケット販売】** ホテルオークラ東京(本館・別館フロント、本館ゲストリレーションズデスク、別館ギフトサロン、各レストラン、バー)、大倉集古館
電子チケットぴあ(Pコード:688-695)Tel.0570-02-9999
ローソンチケット(Lコード:36536) Tel.0570-084-003
JTBエンタメチケット(Pコード:688-733)Tel.0570-030-311

主な出展作品（解説：本展キュレーター：東京藝術大学大学美術館助教 熊澤 弘）



フィンセント・ファン・ゴッホ《静物、白い壺の花（薔薇ほか）》

1886年 油彩、カンヴァス（板で裏打ち）37.0x25.5cm

吉野石膏株式会社

ゴッホがパリに活動の拠点を移した頃の作品。この時期には花を主題として静物画が多く描かれ、「色彩の秀作のシリーズ」と呼ばれる。ここにはパリで知り合ったモンティセリからの影響が指摘され、印象派の表現を試す目的もあったと思われる。ゴッホの書簡には、花の習作によって色彩表現の可能性を追求していたことを示す文言がある。



ヘンドリック・ウィレム・メスダッハ《日没の穏やかな海の漁船》

制作年未詳 油彩、カンヴァス 80.0×112.0cm

オランダ文化財研究所（オランダ王国大使館寄託）

(c)Collection Netherlands Ministry of Foreign Affairs ; Loan Netherlands Institute for Cultural Heritage (ICN), Rijswijk / Amsterdam, on loan to Ministry of Foreign Affairs

19世紀後半、フランスでのオランダには、「ハーグ派」と称される風景画派が登場する。これは、フランスのバルビゾン派に影響を受けながら、身近な主題をリアルな視点で描写した画派で、ゴッホにも影響を与えたことで知られる。メスダッハはハーグ派の創始者のひとりで、パノラマ的な海景画により名声を得た画家である。メスダッハはハーグに拠点を置き、海を見て制作できるようにしていたという。静かな日没頃の海に浮かぶ漁船は、メスダッハが好んで描いた主題であった。



ラオル・ハインケス《静物》

1935年 油彩、カンヴァス 56.0×64.0cm

ING コレクション ©ING Collection

20世紀前半のオランダでは、モチーフを極端にリアルに描く、日常と非日常がない交ぜになった「魔術的リアリズム」が1920-30年代に流行する。ベルギー人のハインケスは当初、印象派、キュビズムの絵画を描いていたが、1930年代に入って魔術的リアリズムの描写を採用するようになる。この画家の作品に登場する果物と風景が見える静物表現は、リアルなものにも、非日常のものにも見える。その繊細なタッチで描かれる描写は、17世紀以来のヴァニタスの静物画を思い起こさせる。

併催イベント概要

『第15回 秘蔵の名品 アートコレクション展』の開催に合わせて、以下のような関連イベントを併催いたします。

セミナー&ギャラリートーク

オランダ絵画の名品を本展覧会のキュレーター・学芸員が解説します。ランチ付きのコースも設け、幅広いお客様にご参加いただけるようプログラムを準備しました。

セミナー&ギャラリートーク

開催日・講師 : 8月5日(水) 静岡文化芸術大学 講師 立入 正之
: 8月10日(月) (同上)
: 8月11日(火) 東京藝術大学大学美術館 助教 熊澤 弘
: 8月25日(火) (同上)
開催時間 : 13:00~15:00 絵画セミナー 13:00~14:00、ギャラリートーク 14:00~15:00
開催会場 : セミナー会場 ケンジントンテラス(ティー&ケーキ付き)
: ギャラリートーク 『第15回 秘蔵の名品 アートコレクション展』 会場
参加費用 : 3,000円
定 員 : 1回 30名

美食カレッジ セミナー&ギャラリートーク

開催日時 : 8月18日(火) セミナー 10:30~11:20
: ギャラリートーク 11:30~12:30
: ランチ 13:00~15:00
講 師 : 東京藝術大学大学美術館 助教 熊澤 弘
内 容 : オランダ絵画の名品を本展覧会のキュレーターが解説。美食家たちが好んだ料理をオークラ風にアレンジした特製コースをオーキッドルーム(本館5階)でご賞味いただきます。
参加費用 : 10,000円(サービス料込み)
定 員 : 30名

ギャラリートーク

開催日 : 8月6日(木)、8月7日(金)、8月17日(月)、8月24日(月)
開催時間 : 15:00~16:00
講 師 : 学芸員 大庭 朋子
参加費用 : 無料
定 員 : 30名
受付方法 : 当日、会場受付で登録

親と子の「やさしいギャラリートーク」

開催日 : 8月12日(水)、8月19日(水)、8月26日(水)
開催時間 : 15:00~16:00
講 師 : 東京純心女子大学学芸員課程の学生
参加費用 : 無料
定 員 : 30名
受付方法 : 当日、会場受付で登録

あなたが選ぶ「秘蔵の名品」ベスト1

図録をお買い求めいただいた方に、もれなく投票券を差し上げます。投票していただいた方の中から抽選で、ホテルオークラ東京の宿泊券などをプレゼントいたします。

- 賞品
- 1位 ホテルオークラ東京 グランドコンフォートダブル宿泊券 1名 朝食付
 - 2位 ホテルオークラ東京ご利用券 10,000 円ギフトチェック 3名
 - 3位 ホテルオークラ東京ご利用券 5,000 円ギフトチェック 5名
- 絵葉書賞 アートコレクション展特製ポストカードセット 30名

アートコレクション展 鑑賞宿泊プラン

期間 : 8月4日(火)～8月30日(日)

ご利用プラン : スタンダードルームご利用プラン

(1泊室料、朝食、アートコレクション展鑑賞チケット、サービス料込み、宿泊税込み)

特典 : アートコレクション展図録、特製ポストカードセット、缶バッチ贈呈

宿泊料 : 1室1名様ご利用 29,000 円～(スタンダードルーム)
1室2名様ご利用 37,000 円～(スーペリアルーム)
1室3名様ご利用 43,000 円～(スーペリアルーム)

アートコレクション展特別ランチ付チケット

毎年ご好評のアートコレクション展の入場とレストランの「アートコレクション展特別ランチメニュー」のセット券(3,800円)を今年もご用意。アートコレクション展図録も贈呈いたします。

対象レストラン: テラスレストラン(本館1階)、ダイニングカフェ カメリア(別館1階)、
チャイニーズテーブル スターライト(本館11階)

下記レストランでは追加料金 1,000 円(ラ・ベル・エポックのみ¥4,400)にて承ります

桃花林(本館6階) ラ・ベル・エポック(別館12階) さざんか(本館11階)
山里(本館5階) オーキッドルーム(本館5階)

なお、土日祝日のチャイニーズ・テーブル・スターライト、及びオーキッドルームはbuffetのみご提供させていただきます。追加料金はそれぞれ 1,000 円、3,600 円追加となります。

日本赤十字社より、来場者にプレゼント

期間: 8月4日(火)～8月8日(土)

先着500名様に「パズル ECO グッズ」を進呈いたします。

〔参考〕 「日本オランダ年 2008-2009」(通商 400 年)について

1600 年豊後の国(大分県臼杵市)沖にオランダ船「リーフデ号」が漂着。その後、徳川家康がオランダとの通商許可証である御朱印状を発行しました。この朱印状は漂着したリーフデ号の乗組員の手によって 5 年後の 1605 年に本国に届けられ、1609 年、オランダ船が長崎県平戸に入港。この年から日本とオランダの貿易が開始され、今年は両国の通商 400 年の記念の年にあたります。

徳川幕府の鎖国政策で外国との接触を禁じられていた中、オランダは長崎の出島を拠点に貿易を行い、ヨーロッパの医学、化学、学問、兵器などを日本に紹介していきました。一方、オランダも日本の美術や工芸、陶器などをヨーロッパへ運び、日本文化の橋渡しの役割を果たしていました。

1858 年には、徳川幕府がオランダとの間で修好通商条約を締結。昨年の 2008 年が 150 周年にあたり、この二つの記念すべき年を両国では「日本オランダ年 2008-2009」として、2 年間にわたって多様な記念イベントを開催しています。

ホテルオークラとオランダとのかかわり

ホテルオークラは、オランダの航空会社 K L M の要請を受けて、1971 (昭和 46) 年に「ホテルオークラ・アムステルダム」を開業。日本のホテル事業として初のヨーロッパ進出を果たしました。アムステルダムでは初の高層ビル(高さ 75 メートル・23 階建て・411 室)として建設され、その威容はオランダ国民の驚異の的となりました。

以来 38 年、ヨーロッパ随一の和食レストラン山里がミシュラン 1 つ星、フランス料理ラ・シェル・ブルーがミシュラン 2 つ星を獲得するなど、日本からの観光客・ビジネスマンのみならず、オランダ国民も親しむ空間とサービスを提供し続け、日蘭友好の一役を担っています。

「秘蔵の名品 アートコレクション展」の歩み

1994年 第1回展「企業の名品 アートコレクション展」

- <テーマ> 企業所蔵の名品
- <来場者数> 34,860人(17日間開催)
- <寄付金額> 22,047,588円(寄付先:ユニセフ)

1996年 第2回展「企業の名品 アートコレクション展」

- <テーマ> 企業所蔵の名品
- <来場者数> 34,474人(19日間開催)
- <寄付金額> 20,279,364円(寄付先:日本赤十字社)

1997年 第3回展「秘蔵の名品 アートコレクション特別展」

- <テーマ> 日本画の巨匠・杉山寧・東山魁夷・高山辰雄・加山又造・平山郁夫の作品を集めて
- <来場者数> 42,458人(18日間開催)
- <寄付金額> 21,446,857円(寄付先:日本赤十字社)

1998年 第4回展「企業の名品 アートコレクション展」

- <テーマ> 印象派の起源からエコール・ド・パリまで
- <来場者数> 25,770人(18日間開催)
- <寄付金額> 10,895,400円(寄付先:日本赤十字社)

1999年 第5回展「秘蔵の名品 アートコレクション展」

- <テーマ> 百花繚乱の新しき“日本の美”
- <来場者数> 16,694人(18日間開催)
- <寄付金額> 5,678,566円(寄付先:日本赤十字社)

2000年 第6回展「秘蔵の名品 アートコレクション展」

- <テーマ> 日蘭交流400周年記念イベント
オランダ絵画の伝統と革新。17世紀の巨匠から現代の俊英まで
- <来場者数> 14,898人(23日間開催)
- <寄付金額> 6,300,000円(寄付先:日本赤十字社、NHK厚生文化事業団)

2001年 第7回展「秘蔵の名品 アートコレクション展」

- <テーマ> 開催後70年「甦る大ローマ展」～昭和の結晶・珠玉の日本画60～
- <来場者数> 32,686人(23日間開催)
- <寄付金額> 8,641,490円(寄付先:日本赤十字社、NHK厚生文化事業団)

2002年 第8回展「秘蔵の名品 アートコレクション展」

- <テーマ> 現代に輝く昭和の油絵 巨星5人の傑作65
- <来場者数> 21,327人(23日間開催)
- <寄付金額> 8,042,296円(寄付先:日本赤十字社、NHK厚生文化事業団)

2003年 第9回展「秘蔵の名品 アートコレクション展」

- <テーマ> 不滅の輝き 甦る幻の松方コレクション
- <来場者数> 22,928人(27日間開催)
- <寄付金額> 8,769,879円(寄付先:日本赤十字社、NHK厚生文化事業団)
- <寄付金額> 8,769,879円(寄付先:日本赤十字社、NHK厚生文化事業団)

- 2004年 10周年記念展「秘蔵の名品 アートコレクション展」
 <テーマ> 近代絵画を築いた日本・欧州 10 大巨匠展
 <来場者数> 24,729 人 (28 日間開催)
 <寄付金額> 6,593,998 円 (寄付先：日本赤十字社、NHK 厚生文化事業団)
- 2005年 第11回展「秘蔵の名品 アートコレクション展」
 <テーマ> ヨーロッパと日本 きらめく女性たち その魅力に出会う
 <来場者数> 22,284 人 (20 日間開催)
 <寄付金額> 9,415,813 円 (寄付先：日本赤十字社、NHK 厚生文化事業団)
- 2006年 第12回展「秘蔵の名品 アートコレクション展」
 <テーマ> 花鳥風月 [日本とヨーロッパ] ~その魅力を探る~
 <来場者数> 22,307 人 (22 日間開催)
 <寄付金額> 6,740,273 円 (寄付先：日本赤十字社、NHK 厚生文化事業団)
- 2007年 第13回展「秘蔵の名品 アートコレクション展」
 <テーマ> 秘蔵の名品
 <来場者数> 22,928 人 (24 日間開催)
 <寄付金額> 6,149,289 円 (寄付先：日本赤十字社、NHK 厚生文化事業団)
- 2008年 第14回展「秘蔵の名品 アートコレクション展」
 <テーマ> パリのエスプリ・京の雅・江戸の粋
 <来場者数> 22,030 人 (23 日間開催)
 <寄付金額> 5,000,000 円 (寄付先：日本赤十字社、NHK 厚生文化事業団)

【過去 14 回合計】

総来場者数 : 361,479 人
 総寄付金額 : 146,000,813 円

報道関係の方からのお問い合わせ先

ホテルオークラ東京 マーケティング部 広報 天野・鈴木
 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2 - 10 - 4
 TEL : 03 - 3224 - 6731 (直通)

一般の方からのお問い合わせ先

ホテルオークラ東京
 TEL : 03 - 3582 - 0111 (代表)

ホテルオークラ東京 ホームページ

<http://www.hotelokura.co.jp/tokyo/>

本プレスリリースは上記 URL からご覧いただけます。

出展作品一覧

No.	作家名	作品名	制作年	技法/材質	寸法 (cm)	所蔵先
1	レンブラント工房	聖家族	1642- 1648年頃	油彩、板	66.5 x 78.0	アムステルダム 国立美術館
2	レンブラント・ファン・ レイン	窓辺で素描をする 自画像	1648年	エッチング、 ドライポイント、 エングレーヴィング	10.0 x 13.0	アムステルダム 国立美術館
3	レンブラント・ファン・ レイン	羊飼へのお告げ	1634年	エッチング、 エングレーヴィング、 ドライポイント	26.2 x 21.8	アムステルダム 国立美術館
4	レンブラント・ファン・ レイン	羊飼の礼拝	1650- 1654年頃	エッチング、 エングレーヴィング、 ドライポイント	14.9 x 19.6	アムステルダム国立美術館
5	レンブラント・ファン・ レイン	エジプトへの逃避	1651年	エッチング、 エングレーヴィング	13 x 11	アムステルダム 国立美術館
6	レンブラント・ファン・ レイン	説教するキリスト	1650- 1654年	エッチング、 ドライポイント	15.4 x 20.6	アムステルダム 国立美術館
7	レンブラント・ファン・ レイン	ラザロの蘇生	1632年頃	エッチング、 エングレーヴィング	36.6 x 25.8	アムステルダム 国立美術館
8	レンブラント・ファン・ レイン	たいまつに照らされる 十字架降下	1654年	エッチング、 エングレーヴィング	21.0 x 16.3	アムステルダム 国立美術館
9	フェルディナント・ ボル	室内の聖家族	1643年	エッチング、 ドライポイント	18.3 x 21.0	アムステルダム 国立美術館
10	サロモン・ファン・ ライスダール	エマオへの路	1668年	油彩、 カンヴァス	86.0 x 108.0	ING コレクション
11	ヨースト・ コルネリスゾーン	ハールレムの シントバーフ教会の内部	1696年	油彩、板	177.0 x 136.0	ING コレクション
12	J・C・ドローフスロート	村の風景	1643年	油彩、 カンヴァス	74.0 x 98.0	ING コレクション
13	ハンス・ ボロンヒール	果物籠のある静物	1637年	油彩、 カンヴァス	41.0 x 59.0	ING コレクション
14	作者不詳	無題	1609年頃	油彩、板	34.0 x 49.0	ING コレクション
15	ヤン・ファン・ ケッセル	ダム広場と 市庁舎	1668年	油彩、板	97.0 x 124.0	オランダ銀行
16	ピーテル・ ヴァウエルマン	泉での狩猟	制作年 不詳	油彩、 カンヴァス	66.0 x 80.5	オランダ文化財研究所 (オランダ王国大使館寄託)
17	作者不詳	無題	制作年 不詳	油彩、板	46.0 x 62.0	ING コレクション
18	ファン・ベールストラ ーテン派	無題	制作年 不詳	油彩、板	70.0 x 105.0	ING コレクション

19	作者不祥	無題	17世紀	油彩、板	51.0 x 81.0	ING コレクション
20	ウィレム・カレル・ ナッケン	馬の品評会	1898年	油彩、 カンヴァス	68.0 x 118.0	ING コレクション
21	チャールズ・レイケルト	氷上での人々の楽しみ	1891年	油彩、 カンヴァス	60.0 x 90.0	ING コレクション
22	ヨハネス・ヘイスベルト・ フォーヘル	山々を背にした 森の風景	1878年	油彩、 カンヴァス	67.0 x 119.0	ING コレクション
23	フランス・アルノルト・ ブレウハウス・デ・フロート	風景	1851年	油彩、 カンヴァス	97.0x 121.0	ING コレクション
24	ヘルマン・ ボーフマン	無題	1890年頃	油彩、 カンヴァス	42.0x 59.0	ING コレクション
25	ウィレム・ ルーロフス	無題	制作年 不詳	油彩、 カンヴァス	57.0 x 110.0	ING コレクション
26	ヤーコプ・H・ マリス	河辺の風車	制作年 不詳	油彩、 カンヴァス	42.0 x 56.0	オランダ文化財研究所 (オランダ王国大使館寄託)
27	ヘンドリック・ ウィレム・メスダッハ	日没の穏やかな 海の漁船	制作年 不詳	油彩、 カンヴァス	80.0 x 112.0	オランダ文化財研究所 (オランダ王国大使館寄託)
28	ヘオルフ・ヘンドリック・ ブレイトネル	ローキン	1896年	油彩、 カンヴァス	92.0 x 122.0	オランダ銀行
29	イサーク・ イスラエルス	浜辺の風景 スヘーファンゲン	1900年頃	油彩、 カンヴァス	60.0 x 80.0	ING コレクション
30	オットー・ウィレム・ アウベルトゥス・ルーロフス	女性の胸像	制作年 不詳	油彩、 カンヴァス	18.5 x 19.0	オランダ文化財研究所 (オランダ王国大使館寄託)
31	ヤン・ スライテルス	O・ルドンへ捧ぐ	1913年	油彩、 カンヴァス	84.0 x 107.0	オランダ銀行
32	ヤン・ スライテルス	光に沈む風景	制作年 不詳	油彩、 カンヴァス	33.0 x 74.5	オランダ銀行
33	レオ・ヘステル	無題	1913年	油彩、 カンヴァス	36.5 x 48.5	ING コレクション
34	ヴィム・ スフーマッハー	アディーネ・ミース の肖像	1933年	油彩、 カンヴァス	95.0 x 128.0	ING コレクション
35	ラオル・ ハインケス	静物	1935年	油彩、 カンヴァス	56.0 x 64.0	ING コレクション
36	ヘンク・ ヘルマンテル	ロッペルサム教会 の南側廊	1969年	油彩、板	114.0 x 77.0	ING コレクション
37	ヘンク・ ヘルマンテル	教会の内部	1970年	油彩、板	90.0 x 76.5	ING コレクション
38	バーレント・ ブランケルト	ヴァイオリンとテーブル	1993年	アクリル、アルキド樹 脂、油彩、板	122.0 x 91.0	ING コレクション
40	ディック・ ピーテルス	水は素晴らしい	1993年	油彩、板	11.0 x 14.0	ING コレクション

39	ディック・ ピーテルス	メガネをかけた自画像	1995年	油彩、板	14.0 x 12.0	ING コレクション
41	ピート・ セーベンス	Gのスモック	1989年	アクリル、油彩、板	55.0 x 40.0	ING コレクション
42	ディック・ケット	聖ニコラウスの静物	1931年	油彩、カンヴァス	82.0 x 61.0	ING コレクション
43	ディック・ケット	ヴァイオリン、新聞、 スフーマッハーとハイン ケスの自画像のある 静物画	1936年	油彩、カンヴァス	83.0 x 71.0	ING コレクション
44	ヘール・ ランゲヴェフ	洋梨のある風景	1937年頃	油彩、カンヴァス	36.0 x 50.0	ING コレクション
45	エドハー・ フェルンハウト	ヨランテの肖像	1936年	油彩、カンヴァス	36.0 x 31.0	ING コレクション
46	エドハー・ フェルンハウト	ドリー・スパートの肖像	1942年	油彩、カンヴァス	35.0 x 28.0	ING コレクション
47	フランス・ファン・ ヒーネン	厚かましさ	制作年 不詳	油彩、板	35.0 x 41.0	ING コレクション
48	フランス・ファン・ ヒーネン	Sun Miと兜	制作年 不詳	油彩、板	43.0 x 33.0	ING コレクション
49	フランス・ファン・ ヒーネン	イリュージョニスト	制作年 不詳	油彩、板	33.0 x 34.0	ING コレクション
50	ヘルコ・デ・ライテル	無題	1997年	アルミニウム、 インクジェットプリント	80.0 x 80.0	オランダ王国大使館
51	ヘルコ・デ・ライテル	無題	1997年	アルミニウム、 インクジェットプリン	80.0 x 80.0	オランダ王国大使館
52	ヘルコ・デ・ライテル	無題	1999年	アルミニウム、 インクジェットプリント	80.0 x 80.0	オランダ王国大使館
53	ピート・ファン・デン・ ポーフ	赤の三部作	2000年	油彩、 カンヴァス	140.0 x 110.0	ING コレクション
54	タナベ・ナオ	願望 I	2006年	ミクストメディア、紙	110.0 x 80.0	ING コレクション
55	コース・ファン・ クーレン	日曜日の午後	2002年	油彩、板	105.0 X 120.0	ING コレクション
56	エレン・コーイ	無題	2003年	エンデュラプリント、 プレキシガラス、レイ ノボンド	65.0 x 163.0	オランダ王国大使館
57	ジャクリーン・ ハッシンク	トヨタ ガール 東京	2001- 2006年	C-プリント	98.0 x 75.0	オランダ銀行
58	ジャクリーン・ ハッシンク	キア ガール 東京	2001- 2006年	C-プリント	98.0 x 75.0	オランダ銀行
59	ジャクリーン・ ハッシンク	正伝寺 '04 (連作「京都風景」より)	2004年	C-プリント	127.0x 160.0	オランダ王国大使館

60	ジャクリーン・ハッシング	西芳寺 北 '06 (連作「京都風景」より)	2006年	C-プリント	160.0 x 127.0	オランダ王国大使館
61	アドリアーナ・ファン・ズースト	磁器の小枝	2004年	油彩、板	54.0 x 39.0	ING コレクション
62	ラディ・ヴェハ	渋谷 #2 東京	2001年	ウルトラクロームプリント、パースペックス樹脂、ディボンド	109.0 x 137.0	ING コレクション
63	ベルナルト・フェルカーイク	甕と玉葱と黒い布	2004年	油彩、板	95.0x 88.0	ING コレクション
64	エド・ファン・デル・コイ	白い薔薇	2000年	アクリル、カンヴァス	150.0x 180.0	ING コレクション
65	エド・ファン・デル・コイ	夏	2000年	アクリル、カンヴァス	170.0 x 140.0	ING コレクション
66	パーレント・ブランケルト	ひじかけいす	2005年	アクリル、アルキド樹脂、油彩、板	126.0 x 122.0	ING コレクション
67	リーサ・ホルデン	電話を通して	2004年	ラムダプリント、プレキシガラス、ディボンド	125.0 x 116.0	オランダ王国大使館
68	バーバラ・フィッセル	家の中を覗き込む (連作「オランダでの一日」より)	2001年	C-プリント	76.0 x 76.0	オランダ銀行
69	バーバラ・フィッセル	アムステルダム国立美術館(連作「オランダでの一日」より)	2001年	C-プリント	76.0 x 76.0	オランダ銀行
70	バーバラ・フィッセル	一組のカップル 二基の風車(連作「オランダでの一日」より)	2001年	C-プリント	76.0 x 76.0	オランダ銀行
71	バーバラ・フィッセル	自転車に乗る人 (連作「オランダでの一日」より)	2001年	C-プリント	76.0 x 76.0	オランダ銀行
72	フィンセント・ファン・ゴッホ	雪原で薪を集める人びと	1884年	油彩、カンヴァス (板で裏打ち)	67.0 x 126.0	吉野石膏株式会社 (山形美術館寄託)
73	フィンセント・ファン・ゴッホ	長い棒を持つ農婦	1885年	油彩、カンヴァス	38.5 x 26.5	個人蔵 (新潟県立近代美術館寄託)
74	フィンセント・ファン・ゴッホ	鋤仕事をする農婦のいる家	1885年	油彩、カンヴァス	30.5 x 40.0	東京富士美術館
75	フィンセント・ファン・ゴッホ	静物、白い壺の花 (薔薇ほか)	1886年	油彩、カンヴァス (板で裏打ち)	37.0 x 25.5	吉野石膏株式会社